

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 171 号)

発行日：2021 年 (R3) 10 月 20 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788  
090-1895-8061 (今住)

E-mail：[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)



「奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿のこゑ聞く時ぞ秋は悲しき」(百人一首) 短歌がブームというのでちょっと有名なところを。

「奥山」を「里山」に変えてください「猿丸太夫」さん。最近西谷でもよくシカの鳴き声を耳にします。平安時代に山林がどうなっていたかは定かではありませんが、少なくとも「奥山」という言葉がある以上集落の近くではないはず。人がほとんど入らない山林＝奥山。

シカとの距離がどんどん近くなっているようです。兵庫県全体ではシカもイノシシも少し頭数が落ち着いてきているという調査もありますが、里山放置林の増加でシカ・イノシシはすぐそこに。里山放置林が奥山の様相になりつつある？確かにシカの声はもの悲しい。でも発情の声と考えるとシカの頭数は増加。「恋や！」とか言ってはいらぬ状況になりつつあるようです。柵を設置するのも対策の一つですが、里山放置林を何とかしなければ根本的解決にはならないでしょう。何かよい知恵はないものか。SDGs…響きはいいがとても難しい。

(今住 10月19日作成)

**臨時活動**★9月26日(日) 歩道ササ刈り(手作業) 7名で活動

(私不参加バーチャルレポート)



歩道ササ類の刈り取り

夏のサギソウも終わりウメバチソウの季節到来か？とはやる気持ちをおさえ作業。といっても湿原内での作業は植生にダメージが多くなる季節。歩道に覆いかぶさってきているササなどの処理を手作業で短時間実施。  
作業中(前?)もツルニンジン(蔓人參)を見つけ「今年も咲いた」としみじみ。  
作業後は湿原に至るまでに奇妙なものを。「病気の毛虫？」よくよく見ると毛虫に何かがついている。知っている人は知っている。「寄生バチや!」「コマユバチ(小繭蜂)の一種です」と。よくよく見ると確かに毛虫についているのは小さな繭。まさしく「小繭」。毛虫自体が少々可愛くないのに加え、「この繭も気持ち悪い」と思ったかどうかは不明。(バーチャルレポートだからね。)画像から調べてみると、タケカレハ(竹枯葉=蛾)の幼虫が寄生されたい。タケカレハもちょっとマニアックな姿の蛾ですが、その幼虫にどれだけ卵を産み付けたのやら。しかも毒を持つ毛虫。繭を作るといことは完全変態。(変な意味じゃないよ!) ややこしいで



ツルニンジン(ジイソブ)



毛虫から出たコマユバチの繭



まだ蕾だった ウメバチソウ

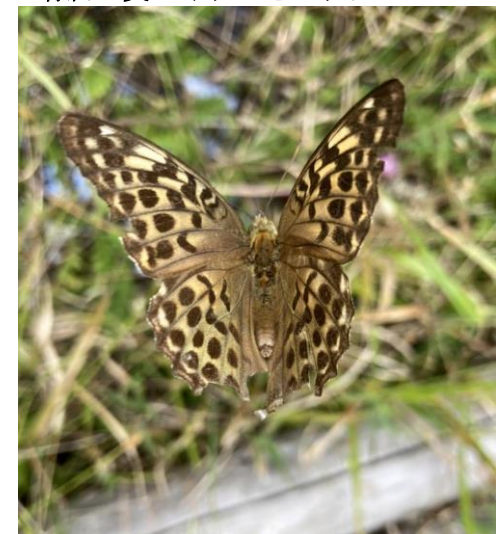
すが、毛虫の中に芋虫がたくさん暮らし、毛虫の肉体を殺さぬように食べて表面に出てくる。そこで繭を作りコマユバチ成体へ。「**いったいどこを食べてきたん?**」毛虫の急所は外していることになります。タケカレハが成虫になればめでたしめでたしなんですが、やはり肉体はスカスカなのか死んでしまうようです。寄生バチにもいろいろ種類があり、寄生方法もいろいろ。ハチには狩りバチもいるし、逆に菌類等に寄生されることも…。そういえば人も寄生されますね。ギョウチュウ検査もあった。不思議と**思っていることが実は自然**なのかも。こう考えるとやはり生物多様性は深い。どの生き物がどの生き物と繋がっているのか計り知れません。一つの生き物の絶滅がどこに影響するのやら？**確実に人も繋がっているはず**です。

難しい話になってしまいました。その後湿原へ。目的のウメバチソウ(梅鉢草)はもう少し。「蕾膨らむ」状態。数日中に開花が始まりそうでした。スイラン(水蘭)も黄色い花を美しく咲かせていました。一日花ですが次々と花を咲かせます。花の生殖戦略もいろいろです。ヒラタアブ(平田虻)の仲間がたくさん来ていました。

ヒョウモンチョウ(豹紋蝶)の仲間が多いのもこの時期。ツマグロヒョウモンやミドリヒョウモン、なんちゃらヒョウモン。こちらも知っている人は知っている。「丸山に多いのは**メスグロヒョウモン(雌黒豹紋)です**」と。このチョウは**名前の通りメスは黒い**。パッと素人を見るとイチモンジチョウかと。今まで当たり前のように「イチモンジチョウの仲間です」と偉そうに言っていたような。深い。実に深い。というより私が浅い。実に浅い。と痛感する毎日です。この写真、最初はミドリヒョウモンと判断したのですが、メスグロヒョウモンの雄の可能性が高いのか？まだ混乱中です。浅い。実に浅い。わ〜か〜ら〜な〜い〜。裏を見ればわかるかな？



有終の美スイランとヒラタアブ



ミドリ？メスグロ？ヒョウモン？？

### 定期活動★10月9日(土) 定期基礎調査 10名で活動

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	46	31	入口	10:00	25.6℃		
ハイキング	35	19	第3湿原	10:27	【20.2℃】	93.3 μS/cm	6.9
散歩・登山	41	34	視点場	10:42	30.2℃	30.7 μS/cm	6.9
			第1湿原	10:53	【20.8℃】	54.4 μS/cm	6.9
			第2湿原	11:23	【20.0℃】	39.8 μS/cm	6.7

来場者数 計 206 人  
(竹筒ポスト人数)

雨が少ない！というより9月初めからほとんど降らず。しかも夏みたいな気温。湿原内も水が枯れてきました。ECも上がり気味。季節が進まない。日差しは秋なんです。（と言っていると17日からストーブが出番に…冬や！）

ウメバチソウも開花。やはり植物は気温だけでなく、日の長さ（長日植物・短日植物）に大きく作用されるのを実感します。本当は夜（暗闇）の方が重要らしい。長夜植物・短夜植物とは言わないのが不思議。闇が存在してこそその世界。人間界と共通しているような？知らんけど。



日差しはすっかり秋



多分ケシロヨメナ



飾り雄蕊が美しいウメバチソウな場所を棲家としているようです。人にとって利用価値の少ない場所。消えゆく運命というの仕方がない？そんなん言ったら怒られる。

ウメバチソウは最終氷期の遺存植物とされています。貧栄養の湿地に生き延びました。サギソウと並び丸山湿原を代表する植物です。しかしサギソウは南方系植物。湧水湿原は南方系と北方系の植物が混在するのが特徴とか。いずれも貧栄養（弱酸性の水？）のなせる業。「栄養は毒」というのも妙ですが、他の種が侵入しづらいニッチ（隙間・適所）

野菊の仲間もたくさん見ることができます。これも分類がややこしい。イナカギク、ケシロヨメナ（毛白嫁菜）、シラヤマギク（白山菊）、ノコンギク、リュウノウギク。適当に名前を並べています。葉に毛が生えているとか、葉が茎を抱くとか、花弁（花びら）がまばらとか…見分け方はいろいろあるようです。「野菊！」では済まない人がたくさん。確かによく知ると面白いんですよね。でもなかなか脳のメモリーに書き込めない。がんばろ…私。何かを消さなくては…バグが多すぎてどうもいかん。嘘ばかり言ってしまう…。消し方もわからない？なんでも忘れていくのにふ・し・ぎ！



花びらがまばらシラヤマギク



一面にヌマガヤの穂が…

湿原内はウメバチソウのほかにも「憎まれ者？」のヌマガヤ（沼茅）が陽光に輝き美しい穂を一斉に立ち上げています。こちらも最終氷期の遺存植物。湿原（特に林縁部）で大きな株になり日陰を作る。背丈の低い植物は光が当たらず衰退。しかも陸化へのプロローグとも。でも子どもたちが来た時には、ストローとして大活躍してくれます。

湿原ではありませんが、山林部のオオウラジロノキ（大裏白の木）。隔年で実（小リンゴ）がたくさんなっています。今年は豊作年。確認するとありました。しかし数はまだ少ない？見上げるとたくさんの実がなっています。今年も「オオウラジロノキ酒」誰か作るのでしょうか。古酒？になると（1年以上寝かすと）相当いけるようです。「至福の果実酒」と形容される美酒。いつも書いてるような…実がなかなか手に入らないみたいですよ！木が少ないもんね！



オオウラジロノキの实 (小リンゴ)

ヒメアカネ（姫茜）も赤さを増して来ました。やはり赤トンボは秋がよく似合う。



ヒメアカネだけど男の子

今年気になるのはハチ（スズメバチ系）がとても少ないこと。素直に喜んでいいような気もしますが、何が原因か知りたいものです。巣作りの時に雨が多かった？働き蜂をうまく育てられなかった？そもそも女王蜂が少なかった？なんでだろう。ま～こんな年もあるか？なんでだろう…。オオスズメバチのあの羽音。全身に走る緊張感が「快感」です。オオスズメバチは意外におとなしい。キロスズメバチはあかんよ。けど、今年はおらん…と思う。いや少ないが正確か？

### 環境学習★10月14日（木）西谷小学校3年環境学習③ フィールドワーク2回目

コロナ緊急事態宣言も解除され環境学習が実施されました。残念ながら一人欠席？去年は「食べつくし」学習。アケビは持ち帰り給食デザートに。今年は昨年より遅くなったためアケビはすでになし。ナツハゼの実、コバノガマズミの実ぐらいたったでしょうか？センブリも食べたか？

しか～し、今回は調べ学習のミッションを携えてやってきました。調べ学習のテーマは①シュレーゲルアオガエル②アリマグミ③ハッチョウトンボ④アカハライモリ⑤イシモチソウ⑥セトウチサンショウウオ。全種兵庫県 RDB 入りの種。かなり調べは進んでいるようですが、実物となると…う～ん時期的に難しい。アカ



始まりはチカラシバでお遊び

ハライモリ（赤腹井守）は何とかしましよと。何の根拠もない約束を。後から思い返すと、実物ではなく何かもっと重要な質問があったのでは？反省…。いつでも答えるよ、出来る範囲で。聞いてね。間違いは多いけど。確認してね。

川を渡りカニや魚、マムシ（蝮）におののきウメバチソウを愛でてひと息。のどが渇きました。となると出番が来ました、又マガヤストロー！第1湿原視点場はもはや又マガヤストロー工場と化していました。水筒に2本差しの子も。「ほんまに吸えるんかいな？」と工場長も疑心暗鬼。しかし注文がなかなか途絶えません。ふと見ると又マガヤ侍まで登場。なんとクリエイティブな。「日輪刀」の変化したものかと…能力は「ないな」。残念。調べ学習に役立ったかは不明ですが、それぞれが



又マガヤストロー2本差し



「日輪刀」ならぬ又マガヤ刀

発見や気づきを胸に駐車場に戻る。「本日の振り返り」をしていると…神が微笑んだ。「あ～イモリや！」なぜかコンクリートの乾いた水路にゴジラいやアカハライモリがノシノシと。振り返りをさぼって（言い方悪いな）いた児童が発見！体やしっぽ上部に赤色の模様。多分2～3歳の子ども。（亜成体？）水辺から離れ山（陸）での修行？明けか。山での生活はまだよくわかっていないらしい。水辺の生き物がなぜ陸上で数年暮らすのか。これ、いいテーマみたいですが。仮説（想像）でも発表したら面白いね～。分かっているから答えは自由。

学習になったかどうかは不明ですが、私たちは楽しゅうございました。次回は2月か？待ってま～す。調べ学習楽しみにしています。

### セミナー終了 ★10月16日（土）「宝塚西谷の森公園」多目的室と周辺 参加者31名

コロナ緊急事態宣言解除。人数枠も増やせ無事終了しました。報告は次回に。少々お待ちを。

次回活動日 10月24日（日） 11月13日（土） 28日（日） 12月11日（土）